

NEW HOPE BAPTIST CHURCH



2014年11月

ミシガン州の喧騒の街 Grand Rapids に毎週土曜日に住まいの居間を開放した信心深い人たちの集まりが 1934 年に設立した《NEW HOPE BAPTIST CHURCH》が 800 人の信者を集める集まりに発展しました。より快適な環境を作るため、教会は 750 人が集まることができる礼拝堂、入りきれない信者用の部屋、そして付属する施設を改良することにしました。新しい音響設備は、アシュリーの音響プロセッサーとパワーアンプにまとめられ、信者が操作できるものになりました。New Hope のお説教が高い明瞭度で聞こえること、教会のバンドが再生できること、讃美歌の音楽性が再生できることを主たる設計目標にしました。慎重にアシュリーの製品が教会が考える予算と耐久性に耐えることができるかが検討されました。教会近くのミシガン州の Grandville にある Pro Audio Inc., がこの教会の設備を設計して施工しました。

Pro Audio Inc., の社長である Ken Reinecke 氏は「アシュリー製品の性能は最高で、価格も非常に納得できるものだ。その製品構成も良く、音質面でもアシュリーのプロセッサーとパワーアンプが透明感がある。入/出力プラスイコライザーやダイナミックスに対しても調整が簡単である。96kHz の解像度で動かすことができることも魅力的である。アシュリーの Protea DSP のプログラミングは分かりやすい。必要とするプロセッサー設定もドラッグ・アンド・ドロップできるし、適切な入/出力もドラッグをすることが可能である。グループにリンクすることも使いやすい。アシュリー製品は信頼性も高い。」と語っています。New Hope Baptist Church が建っている場所は地価の高い場所なので、Reinecke はプロセッサーとパワーアンプを 6U のラックに収めました。

Soundcraft の新しい Si Performer 3 コンソールが礼拝堂における使用者の操作部分を担っています。コンソールからの信号をアシュリーの **ne8800 8x8 Network DSP Protea™** プロセッサがラウドスピーカーの設定を全て行っています。ラウドスピーカーは JBL VRX928LA 8 1/2" のユニットを使った 2 ウェイ・ラインアレイシステムと JBL 915S sub の設定をおこなっています。ステレオのライン・アレイは、アシュリーのチャンネルあたり 3,000 W の出力を持つ **nXe3.04** 4 チャンネル・パワーアンプで駆動されています。加えてコンソールの出力はアシュリーの 8x8 Matrix、Protea Software そしてチャンネルあたり 250 W の出力を 8 系統備えた **Pema8250** に接続されています。**Pema8250** は教会の拝廊や礼拝堂の他で使われるマイクロホンや演奏者のサウンドを壁面ジャックで受けて、そのサウンドにプロセッシングをかけています。使い勝手の多様性を備えた **Pema8250** は教会にある 2 か所の母子室、看護室、洗礼室、拝廊のスピーカーシステムを駆動しています。

アシュリーの **WR-5 Programmable wall-mount remote control** が 4 台礼拝堂の外部周辺によく考えて配置されており、マイクロホンや楽器の入力を礼拝堂のサウンドと同じように調整しています。Reinecke 氏は「このリモート・コントロールを配置したことの良さは、信者さんが音響的な技術に悩まされることなく、それぞれの部屋の音を調整できることです。メインのシステムはコンソールで完全に制御されておりますが、教会のスタッフはマイクを使うことができ、アシュリーの **WR-5** リモート・コントロールが礼拝堂の外で音楽再生をしたり、単独で会議や小さな催し物の拡声をしたりすることが可能になります。」と語っています。



ne8800
8x8 Network Protea Processor



nXe3.04
3000 W x4 パワーアンプ



Pema8250
プロセッシング・パワーアンプ



WR-5
入力、音量、パターン切り替え
リモート・コントロール

各製品の日本語資料を用意しています。